2025年度 児童館年間利用数

八幡児童館

2024年度							2025年度					
学年	学童登録人数	延長保育					学童登録人数	延長保育				
		17時～18時		18時～19時				17時～18時		18時～19時		
1年	20	名	16	名	3	名	9	名	5	名	2	名
2年	20	名	7	名	2	名	21	名	12	名	2	名
3年	11	名	4	名	1	名	19	名	5	名	2	名
4年	18	名	3	名	1	名	8	名	1	名	0	名
5年	7	名	1	名	1	名	11	名	0	名	0	名
6年	5	名	0	名	0	名	0	名	0	名	0	名
合計	81	名	31	名	8	名	68	名	23	名	6	名

自由来館者数													
2024年度							2025年度						
幼児	小学生		中高生	大人	その他	合計	幼児	小学生		中高生	大人	その他	合計
	1～3	4～6						1～3	4～6				
1,764	274	104	106	1,924	715	4,887	2,261	303	159	13	2,156	565	5,457

学童年間利用数													
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2024年度	1,202	1,014	1,021	1,181	900	946	979	883	936	846	841	958	11,707
2025年度	1,019	891	886	980	811	887	934	696	787	726	878	845	10,340

ヒヤリハット　A（危険度重）B（危険度中）C（危険度軽）	事故報告　（受診を要した件数）	要望・意見・苦情　報告
A：　1件　　B：　0件　　C：　5件	1件	要望：　1件　　意見：　0件　　苦情：　1件

方針	基本法人	重点目標	計画(P)	実践内容(D)	評価(C)	改善（A）
サービスの質の向上		子育て支援の強化	・地域の子育て世代が利用しやすいように児童館だよりやSNSを活用してイベント内容を発信する。 ・親のリフレッシュの場、親同士の交流の場を提供できるように利用者のニーズを把握しながら行事内容を検討し実行する。	・インスタグラム行事や広場の様子を掲載し、利用者への提供を行う。 ・地域の主任児童委員と密に連絡を図り、行事内容を計画する。	・SNSの活用で、乳幼児親子の利用が増加してきている。 ・地区の主任児童委員を中心に、児童館行事を計画したり、場所の提供を行い、協力し合うことができた。	・積極的にSNSを活用することで、なかよしひろば内での様子を配信し、利用してみたいと思っていただけるプログラムを計画していく。 ・主任児童委員と連携しながら、地域の繋がりを確立した子育て支援を行っていく。
		児童育成の拡充	・中・高生に職業体験・福祉体験の場を提供する。 ・小学生高学年児童が主体でできる行事の実施。	・トライやるウイーク2校より4名の受入れをする。 ワークキャンプ2名受け入れる。 ・一般児童の参加を促すため、児童館行事を見直し、利用者へ周知を図る。	・トライやるや、ワークキャンプを受け入れた後の中高生の利用が続かないため、どの様な働きかけをし、どんな活動をしていくのかを明確にしなければならない。 ・全体的に行事が少なかったため、健全育成につながる年間行事の見直しが必要である。	・中高生の興味を知ったり、児童館に望むことなど意見を傾聴し、利用があった時にはコミュニケーションを図る。 ・新しく魅力ある行事の計画と実践で、来館人数の増を目指す。
地域との共生		地域との連携	・地域ボランティアの活用 ・子育てコミュニティ事業の計画・実施。 ・児童館の行事の案内を地域の方に配布をする。	・主任児童委員に託児ボランティアを依頼する。 ・子育てコミュニティ事業は年間行事を立て、地域の支援者と一緒に行事を行う。	・主任児童員に託児ボランティアを依頼したことで、子育て相談だけではなく、地域の親子ファミリー層を知っていただくことができた。 ・子育てコミュニティ事業では、参加人数に限りがある行事も多かったため、見直しが必要である。	・子育てコミュニティ事業では、誰でもが参加しやすい行事を行っていく。今年度の反省を踏まえ、地域団体の代表の方々と連携を密にし、より良い事業を行う。
		年間利用数	・自由来館 年間利用者予定数 （　5,000名） ・学童保育クラブ年間利用者予定数　（ 10,000名）	・自由来館利用者　　5,457名の受入れをする。 ・学童保育利用者　　10,340名の受入れをする。	・自由来館の利用者は増えたが、学童児童数が減っていたため、利用数も6年度と比較すると約1,400名の減となった。	・自由来館から学童児まで、児童館を利用される方に、また利用してみたいと思っていただけるような環境整備と改修を行い、清潔で安全な居場所の提供ができるよう努め来館数の増を目指す。